

令和4年度第1回瀬戸市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体会議 議事録

開催日時	令和4年7月4日（月）午後2時から午後3時30分まで
参加者	委員：別紙委員名簿のとおり 事務局：高齢者福祉課長、専門員兼地域支援係長、担当主事補
場所	やすらぎ会館5階 大集会室
内容	<p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> 委員の紹介 <p>2 議事</p> <p>(1) 委員長・副委員長の選任</p> <ul style="list-style-type: none"> 互選により、委員長、副委員長が選任された。 <p>(2) 協議体、生活支援コーディネーターについて</p> <p>【資料1、2】を基に事務局より説明。</p> <p>協議体では、地域の課題や地域資源をもとに今後の政策への反映を検討していく。瀬戸市では令和3年度と4年度の2か年の会議を踏まえて政策提言を行う。2か年の課題は、「コロナ禍におけるつながりの希薄化」であり、課題解決のために「新しい生活様式に合わせた外出機会の創出」を検討していく。</p> <p>生活支援コーディネーターとは、「高齢者の生活支援・介護予防サービスの体制整備を推進していくことを目的とし、地域において、生活支援・介護予防サービスの提供体制の構築に向けてコーディネート機能を果たす者」とされている。主な役割は、生活支援の担い手の養成や、サービスの開発、関係者とのネットワーク構築、ニーズとサービスのマッチングなどがあげられる。生活支援コーディネーターは第1層と第2層に分かれており、第1層は市町村全域を、第2層は日常生活圏域を対象に活動している。</p> <p>(3) 令和4年度生活支援コーディネーター活動計画・報告</p> <p>【資料3】を基に生活支援コーディネーターより取組及び活動進捗について説明。</p> <p>〈説明内容〉</p> <p>○活動報告</p> <p>①瀬戸市全域（第1層）</p> <p>運動に関する習い事をマップ化した「つながりやっぱり思いやり」の冊子を2000部作成した。昨年度委員の方から意見をいただき、今年度は医療機関等にも配布した。また、配布の際に運動に関する事業所へ利用者の困りごとを聞き取った。生活に直下するような課題を抱えている利用者も多いとのことなので、今後事業所と連携していく。</p> <p>企業の社会貢献をサポートするために地域福祉パートナーシップ連携制度を制定した。第1号として近隣企業を認定し、先日やすらぎ会館でヨガ教室・バランスボール教室を行った。</p>

②日常生活圏域（第2層）

今後は地域企業との連携が必要になると考えており、近隣スーパーや企業、飲食店などに聞き取りを行い、地域貢献の可能性を探った。また、瀬戸介護事業連絡協議会居宅部会にて、ケアマネジャーに向けて生活支援コーディネーターの周知を行った。その後、ケアマネジャーからの相談件数が増加した。

中央東圏域では、圏域内の寺院の協力があり、地域包括支援センターと連携してサロンを開催した。十分な協力関係がつくれていると思う。

自治会や民生委員の災害時の対応について、民生委員の総会の時に自治会と民生委員の連携について講演会を開催し、平時からの連携強化の必要性を啓発した。

○課題

地域で活躍できる担い手が減っている。また、免許返納後の移動手段がないことが課題としてあげられる。移動販売やネットスーパーの需要も高まっており、尾張旭市ではスーパーマーケットが移動スーパーと連携して移動販売を行っているので、参考にしていきたい。

○今後の目標

①瀬戸市全域（第1層）

居場所とそこから生まれる人のつながりが必要。居場所では今活動している場所だけでなく、居場所となる可能性を秘めている場所も調査していく。また、居場所づくりだけでなく、付加価値をつけるなどして出かけるための目的づくりにも取り組んでいく。地域団体間で協議できる場を設け、様々な団体が協力してできることを探していける場を作っていく。

②日常生活圏域（第2層）

移動手段を持たなければ外出できない人がいる。買い物ツールの活用により、買い物の手立てを検討していく必要がある。

地域の人材が今後の介護予防、地域のつながりにおいて重要な役割を担っていく。現在は少人数で複数の役割を担っている方が多いので、担い手を養成していく必要がある。

地域の課題は地域の個人から発生する課題であり、第一に課題を検討し、地域で解決できない課題について協議体で検討し、政策形成に取り組んでいく。地域包括支援センターから地域ケア会議の出席依頼があった際は、ご協力いただけるとありがたい。

〈質疑応答〉

[瀬戸地域福祉を考える会まごころより質問]

地域の人が地域ケア会議にもっていけない課題がある。萩山台には福島県からの被災者で、年金でやりくりできていない人がいる。愛知県被災者支援センターからの依頼で関わっているが、地域で把握されていないのが現状。地域包括支援センターと連携していく必要がある。

また、ネットスーパーを利用するまでにどのようにアプローチしていくのか。使えない人もいるのではないかと。菱野団地では移動販売をしているが、そこまでも来られない人もいます。

[第1層生活支援コーディネーターより回答]

ネットスーパーについては、使える人、使えない人がいると思うが、一つのツールとして先々を見据えて考えていく。高齢者を「できない」と一括りにするのはなく、2本立てで考えていくのがいいのではないかと。また、尾張旭では移動販売を行っているが、移動販売を拠点として地域交流が主な目的になってきているという話もあった。瀬戸市でも付加価値を考慮し、検討していきたい。

地域ケア会議の課題は、身近に相談窓口があることを知らない、知っていてもどう相談したらいいかわからない人が多いのではないかと。

[委員長より意見]

相談できる場所を知ってもらう環境をつくることも協議体の役割の一つ。見せ方の工夫も考えていきたい。

[地区社協会長連絡会より意見]

近年、組長が順番に回ってくるのが嫌で自治会から脱退する人が増えている。自治会から脱退すると、回覧も広報も回らないため、孤立してしまう。

[委員長より意見]

高齢になることで自治体活動が負担になっている方もいます。生活支援コーディネーターには自治会員の交流したいという思いを、普段の自治会の活動と繋げていける居場所づくりを目指してほしい。

(4) 令和4年度瀬戸市施策の報告

【資料4】を基に事務局から説明。

①移動支援について

令和2年度から令和4年度まで愛知県の委託事業として実施している。令和3年度は道泉・東明地区にて実証実験を実施し今年度も同地区で行う。道泉地区は「買い物」を目的として、2月まで2種類のコースを月1回ずつ実施する予定。東明は「交流」を目的として、2月まで2か月に一回の計4回実施予定。次年度の運用に向けて検討を続けている。

②チームオレンジについて 瀬戸市認知症地域支援推進員より説明。

チームオレンジは昨年度の2月から実施している。認知症ステップアップ研修受講者にサポーターになっていただき、現在46名の登録がある。5件の個別支援を実施していたが、件数が増加しなかったため、3つのプロジェクトを実施することとなった。生活支援コーディネーターと協力しながら、プロジェクトが地域の居場所となるよう活用していきたい。

③本気ダンスについて

ラップ調の歌詞を歌いながら、オリジナルダンスを歌うことで口腔機能の向上

と介護予防につなげることを目的としている。現在48名の伝道師がおり、昨年度は41回の個人活動もあった。養成した伝道師が新たな伝道師を育てる「自走モデル」を目標に取り組んでいく。

〈質疑応答〉

[瀬戸地域福祉を考える会まごころより意見]

東明のやまいきツアーはまごころが移動を担っている。地域の移動困難者の買い物をサポートするだけでなく、買い物の先に何か付加価値があるといい。

[瀬戸市シルバー人材センターより意見]

課題が多く、断片的で整理がつかない。高齢者への支援は切り口が多いので、頭を整理できるようなマップなどがあるといいのではないか。

[委員長より意見]

各組織が様々な活動をしており、地域福祉に貢献している。それぞれの活動があって全体像が見えにくく、相談場所もわかりにくい。困りごとがあったときに解決できるマップのようなものがあるといい。

[事務局より回答]

課題の整理とそれを伝達することが課題。生活支援コーディネーターと協力しながら、地域の実情を把握し、今後は整理と伝達することに注力していきたい。

(5) コロナ禍における地域資源、地域課題の共有

【資料5】について各委員より説明。

[基幹型地域包括支援センターより説明]

「せとらカフェやすらぎ」で、若年性認知症の方がやりたいと言っていた畑を実施している。認知症が進行してできなくなってしまうても、残された人でも実施できる体制整備が必要。免許を返納した人も安心して参加できる交通手段があるといい。

[第1層生活支援コーディネーターより説明]

よりどころが市内46か所あり、34か所が活動している。また、感染への意識が薄くなっている印象があり、正しくコロナと付き合っていくことが必要である。

[地区社協会長連絡会より説明]

人数制限をしながらサロンを実施している。室内でできる運動を教えてもらえるとありがたい。

[委員長より意見]

皆様の活動を整理し、外出機会の創出に結びつけていく政策提言を行っていく。昨年度の提案と今年度の提案を整理し、まとめていきたい。

	<p>3 その他 事務局より今年度の会議の案内。第2回は10月下旬から11月上旬を予定。</p> <p>4 閉会</p>
--	--